

日医発 227 号（地域）  
令和 6 年 4 月 17 日

都道府県医師会会長 殿

公益社団法人日本医師会  
会長 松本吉郎  
(公印省略)

令和 6 年能登半島地震における 5 月の J M A T 編成について（依頼）

貴職におかれましては、令和 6 年能登半島地震への支援につきご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて今般、「令和 6 年能登半島地震」災害対策本部会議（第 1 3 回）を開催し、石川県医師会からの要請（別添参照）に基づき、5 月における JMAT（日本医師会災害医療チーム）の派遣を行うことといたしました。具体的には、下記の通りになります。

つきましては、関東甲信越・東京、中部、近畿地区の医師会を基本として、チームの編成についてご検討いただきたく存じます。よろしくお願い申し上げます。

#### 記

- **派遣期間**：5 月 7 日（火）～ 3 1 日（金）
- **派遣数**：火曜日、金曜日の輪島門前地区派遣を中心にした、2 泊または 3 泊のチームを各 1 隊派遣  
※ 1 つの医師会が継続的に派遣する必要はなく、いわゆる単発派遣でもかまいません  
※ 災害救助法の適用延長がない場合は、日本医師会からの支援金にて旅費等を負担
- **主な支援内容**
  - ・ 火曜日・金曜日を基本とする輪島市門前地区の褥瘡回診
  - ・ 門前地区の避難所や仮設住宅の巡回
  - ・ 能登北部地方の診療所から支援依頼があった場合の応需
  - ・ 能登北部地方の高齢者施設への定期的な支援介入
  - ・ 穴水町や志賀町などの支援依頼があった場合の応需

ご連絡先

日本医師会 J M A T 本部

Tel 03-3942-6137

Fax 03-3946-2140

[chiiki\\_1@po.med.or.jp](mailto:chiiki_1@po.med.or.jp)

日本医師会御中

### 県外 JMAT 派遣の 5 月末までの延長のお願い

<理由>

- ・輪島市、珠洲市の病院においては、ライフラインが復旧し、外来診療も再開しているものの、入院機能は通常の 3 割未満（2 病院：26.6%）。
- ・診療所については、多くの施設で診療が再開されている。ただし、医療コンテナでの対応であったり、建物の工事や医療機器の修繕・更新が必要な状況であり、震災前の状態に戻るには相当の期間と支援が必要。また、診療が再開できない施設もある。
- ・避難者が戻ってこないかもしれないという不安な状況下で、閉院という選択肢を考えながら日々診療を継続している状況。
- ・輪島市、珠洲市の高齢者施設については、未だ 2,000 人の方が避難しており、避難の長期化を受け、災害関連死を防ぐための予防及び防疫的な医療が必要である。

加えて、

- ・これまでの都道府県医師会による JMAT 支援（県外 JMAT）について能登北部医師会の先生方は大変感謝をされている。その支えにより、自院での医療機能を取り戻しつつある診療所が複数ある一方で、診療所が全壊し自身も高齢で体調不安を抱えながら診療している医師や、震災対応期間中に怪我をされ痛みを我慢しながら診療している医師もいる。そうした医師からは自院から離れた場所にある避難所や高齢者施設、仮設住宅への巡視に未だ不安の声が表出されている。4 月中は群馬県医師会 JMAT を中心とした県外 JMAT により支えられ何とか診療を継続することができた。それはおそらく心の支えにもなっていたと思われる。未だ不安を表明されている医師が複数いることから、5 月末までの全国からの JMAT 派遣をお願いしたい。

（具体的な支援内容） 以下の活動は、週 2 回程度の対応で可能

- ・輪島市門前にあるグループホーム楓の家、特別養護老人ホームゆきわりそうの褥瘡回診
- ・門前の避難所 11 か所の巡回（現在、避難所には約 250 名程度）
- ・門前の仮設住宅への巡回（現在、250 世帯が入居し、今後増える予定）
- ・旧輪島市、門前、能登町の診療所から支援の依頼があった場合は応需する
- ・能登北部に点在する高齢者施設 41 施設への定期的な支援介入
- ・穴水町や志賀町などからも、ノロや発熱などの対応の依頼があれば応需する

文責：石川県医師会 JMAT 調整本部長 齊藤典才